

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新政権による経済対策(アベノミクス)が好感され、円安・株高が進行し、輸出環境の持ち直し等により景気に緩やかな回復の兆しが見られるものの、実体経済は依然として厳しく消費増税に対する影響や雇用環境など、先行き不透明な状況で推移いたしました。

医療界、介護業界におきましては、少子高齢化の進展に伴い高齢者人口が増加するなど、社会構造が変化していく中で効率経営が求められております。

このような環境の下で、当社グループは、医療・介護サービスの潜在的な需要が拡大するものと捉え、安全性を最優先としつつ事業規模の拡大に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高11,095百万円(前年同期比9.0%増)、営業利益622百万円(同8.0%増)、経常利益595百万円(同9.0%増)、四半期純利益は342百万円(同38.8%減)となり有価証券売却益を計上した前期に比べ減益となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(調剤薬局事業)

当社グループの調剤薬局店舗数は、1店舗増加し82店舗となりました。また、既存店におきましては、処方日数の長期化により処方箋単価が前年を上回り増収となりました。これらにより売上高9,850百万円(前年同期比7.4%増)、営業利益770百万円(同12.9%増)となりました。

(ヘルスケア事業)

ヘルスケア事業におきましては、平成25年7月に介護付有料老人ホーム「ハーモニーハウス伊賀上野」を開業し施設総数は9施設となりました。前期に開業した2施設も寄与し、売上高720百万円(前年同期比24.9%増)となりました。営業利益は新規開業費用の計上により22百万円(同72.3%減)となりました。

(医薬品卸事業)

医薬品卸事業におきましては、ジェネリック医薬品使用促進策に沿って市場が拡大する中で、積極的な営業活動を展開し、売上高488百万円(前年同期比23.4%増)、営業利益42百万円(同0.3%減)となりました。(内部売上を含む売上高は703百万円となり、前年同期比で20.8%増加しました。)

(不動産事業)

不動産事業におきましては、保有する不動産からの安定した賃料収入により、売上高35百万円(前年同期比5.0%減)、営業利益18百万円(同10.0%減)となりました。

また、投資事業におきまして、株式会社ヘルスケア・キャピタルは有価証券売却益17百万円を計上しております。

なお、セグメント間の内部売上高として214百万円を消去するとともに、全社における共通経費として231百万円を計上しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は16,622百万円となり、前連結会計年度末と比較して997百万円増加いたしました。

流動資産の合計は7,449百万円となり、前連結会計年度末と比較して238百万円増加いたしました。これは主に、売掛金の増加189百万円によるものです。

固定資産の合計は9,173百万円となり、前連結会計年度末と比較して759百万円増加いたしました。これは主に、建物及び構築物の増加312百万円と有形固定資産のその他(建設仮勘定等)の増加226百万円、投資有価証券の増加125百万円によるものです。

負債合計は11,391百万円となり、前連結会計年度末と比較して792百万円増加いたしました。これは主に、長期借入金(1年内返済予定を含む)の増加401百万円と買掛金の増加191百万円によるものです。

純資産合計は5,231百万円となり、前連結会計年度末と比較して205百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益342百万円によるものです。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同現物(以下、「資金」という。)は3,886百万円となり、前連結会計年度末と比較して64百万円増加いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、766百万円(前年同期比387百万円の増加)となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益610百万円、仕入債務の増加190百万円、減価償却費176百万円があったものの、売上債権の増加189百万円、法人税等の支払252百万円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、1,003百万円(前年同期は1,715百万円の収入)となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出782百万円、投資有価証券の取得による支出212百万円によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は、301百万円(前年同期は555百万円の支出)となりました。これは主に、長期借入金の純増加401百万円によるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成26年2月期の業績予想につきましては、平成25年4月5日公表の数値から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。